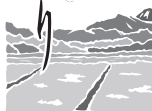


故郷

への便り



646 ◀◀

楠本 昌彦 (58)

白浜町 出身

国立がん研究センター東病院 科長

いきいき生きる いきいき
 生きる ひどりで立って まっすべ
 生きる 息あるつちは いきいき
 生きる 生きる



はつきり話す はつきり話
 す 話す
 困ったときは あわてずに
 人間について よく考える
 考えたなら はつきり話す
 しっかりつかむ しっかり
 つかむ
 まことの知恵を しっかり
 つかむ

困ったときは 手を出して
 ともだちの手を しっかり
 つかむ

手と手をつないで しっかり
 生きる

◇ 存じの方もおられるか
 と思うが、これは岩手県釜
 石市・釜石小学校の校歌で
 ある。作詞は、井上ひさし
 さん(1934~2010

校歌の効果

年)。

小学校の校歌は、幼い頃
 の6年間ずっと歌うので、
 死ぬまで忘れない。しかし、
 歌詞の意味を十分に理解し
 ないまま、まるで空覚えの
 ように覚えていることが多
 い。特に歴史のある小学校
 の校歌は、多くの場合、文
 語調で書かれており、現代
 の小学生には分かりづら
 い。語句の解説が必要だが、

解説を受けてもピンとこな
 いだろう。

それぞれの学校の独自性
 を出すために、校歌には地
 域の地名を用いることも多
 い。私自身の場合でも、富
 田川、牟婁の山並み、扇ヶ
 浜などの地名が織り込まれ
 た校歌を思い出す。しかし、
 この釜石小学校の校歌には
 地名はなく、どの地域の小

学校でも「わが校歌」とし
 て歌うことが可能である。
 校歌でよく使われる「学
 ぶ」という言葉にも縁がな
 い。あるのは「生きる」「
 話す」「考える」「つか
 む」という言葉だ。これを
 幼少時代からの生き方の基
 本と考え、自分で考えるこ
 との大切さ、その自分自身
 の考えを相手にきちんと伝
 える大切さ、さらにそれを

伝えた上で助け合うことの
 大切さを、誰にもわかる平
 易な言葉で表している。
 算数や国語の苦手な子
 も、これならできる。

歌詞に盛り込まれている
 言葉は、幼少時代に大切な
 だけでなく、大人になっ
 ても社会で生きていく上でど
 ても大切で基本的なことであ
 るろう。

先の震災で、釜石小学校
 の周囲は甚大な被害にあっ
 たが、釜石小学校の児童は
 たった一人の犠牲者も出さ
 なかった。普段から「津波
 が来る前に高台に逃げる」
 という教育をきちんと受け
 ていたからだ。地震の直後、
 小学生たちはこの校歌を歌
 いながら高台に逃げたそう
 だ。

協力「南紀人材
 交流センター」